

# 平成28年度 第2回 浜松市総合教育会議 次第

日時：平成28年10月4日(火) 15:00～17:00

場所：庁議室

## 1 開会

## 2 市長あいさつ

## 3 協議事項

- (1) 「子どもの放課後の居場所づくり」について(報告)
- (2) 「子どもの才能を伸ばす教育」について(意見交換)
- (3) 次回の協議事項について

## 4 閉会

### － 配付資料一覧 －

資料 1	報告資料
資料 2	意見交換資料

## 放課後児童会における大学生ボランティアの活用について

## 1 第1回総合教育会議 協議事項「放課後の居場所づくり」の主な意見

- (1) 放課後児童会のハード整備（スペースの確保、施設の地域差）
- (2) 子どもの居場所と高齢者の居場所の一体的整備
- (3) 放課後児童会の活動場所（学習とそれ以外の活動の場所を分ける仕組みづくり）
- (4) 放課後児童会の支援員（優秀な指導者、活動のコーディネーター）の育成
- (5) 教員OBや退職者、大学生のボランティア活用のモデル試行、成功事例の横展開
- (6) 有償ボランティア制度の導入の検討

## 2 取り組みの概要

上記(5)のうち「大学生のボランティア活用のモデル試行」及び(6)「有償ボランティア制度の導入」を検討するため、浜松市と包括連携協定を締結し、「地域が支える子育て支援に関すること」で学生の社会参画に取り組む浜松学院大学から課題などを聴取した。

## 3 意義

- (1) 教育に関わる体験による人材育成
- (2) 放課後児童会でのダイナミックな活動の協力者
- (3) 「お兄さん」「お姉さん」との異世代交流
- (4) 運営スタッフの人材確保

## 4 課題及び実施手法案

## (1) 大学授業との時間調整

平日、放課後児童会の開設時間と大学の授業時間が重なる可能性が大きいため、参加の障壁となる。

※ただし、浜松学院大学子どもコミュニケーション学科では、大学1年（後期）、大学2年（通年）で、ボランティア実習を授業の一環で実施している。

⇒【実施手法案】

夏休みに大学生ボランティア活用を施行的に実施

## (2) 放課後児童会における大学生ボランティアへの有償ボランティア制度の導入

継続的に、責任感を持って参加できる仕組みとして、有償ボランティア制度の導入を検討する。

⇒【実施手法案】

ア 労働に対する対価としての報酬を支給

イ 活動場所までの交通費を支給

## 5 今後の調整

## (1) 受け入れ態勢の調査

主任支援員研修で実施

## (2) 各大学との連携

今後、浜松市学生ボランティアネットワーク（通称「学ボラネット」）とも調整

## 協議事項 「子どもの才能を伸ばす教育」

## 論 点

子どもの才能を伸ばす取り組みをどのように推進するか。

## 協議のポイント

子どもの才能を伸ばす教育の

① 機会の提供

② 場所の提供

- 企業を始めとした地域との連携
- 様々な分野の専門家や指導者との連携
- 働き掛けの工夫や体験の充実
- 興味・関心に応じたサポートの充実

## 国の方針

➤ 教育再生実行会議 第9次提言

「全ての子どもたちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ」（平成28年5月20日）

「多様な個性や能力のある子どもたちが、これまで十分に伸ばせていなかった能力を開花させ、社会の中で活躍できる可能性を広げられるよう、これまで以上に学校が地域や社会と連携しながら、これまでよりも包容力を高め、懐深い教育を展開していくことや、ICT等を活用して一人ひとりの特性に応じた適切な配慮や支援を充実し、世界で最も進んだ教育を実現していくことが必要」

【主な施策】

- ・よりきめ細かい習熟度別少人数指導などの推進
- ・専門的な知識・技能を持った優れた人材による指導の促進
- ・ICTの活用などによる個々の子どもの課題に対応した学習の推進
- ・放課後などや地域における学習の場の充実
- ・子どものうちから「本物」の専門家に出会う機会の充実
- ・特別免許状、特別非常勤講師などの制度の一層の活用を促進
- ・小学校高学年での教科担任制の推進

## 本市の取り組み

### ◆これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む施策

#### 【取り組みの状況】

英語教育	○小学校教諭英語指導力向上のための海外研修の実施 ○教員の指導力向上研修の実施などによる英語科授業の充実
情報教育	○タブレット端末による学習応援システムの実証研究 ○「学校の情報化推進計画」の策定・運用、情報機器の導入
理数教育	○全小学校への理科支援員の配置 ○浜松版理科カリキュラムの整備
心の教育	○冊子「はままつマナー」(小学校低学年版、小学校高学年版、中学生版)などを活用した豊かな心を育む取り組み
学力調査の実施	○「浜松市新学力調査」の作成と実施 小学校:3年、5年(国・算) 中学校:2年(国・数・英)
音楽教育	○音楽発表会(中学校) ○音楽科研究発表会(小・中学校)をアクトホールなどで開催
図工・美術	○「浜松市子どもの市展」の開催 ○浜松駅北口広場地下道市民ギャラリーへの児童生徒の作品展示
文化・スポーツ	○30分間回泳(小学校5年生対象) ○文化・スポーツ活動における大会出場への激励金交付や文化・スポーツ賞授与

#### 【主な成果】

- 「理科が好き」という回答の割合が全国を上回っている。(平成27年度全国学力・学習状況調査報告「中学3年」)
- 世界規模の大会が開催される会場で、音楽科研究発表会や30分間回泳などを実施し、自己実現する喜びを知ったり、将来の可能性を広げたりすることができる有意義な体験とするとともに、郷土・浜松の誇りを体感する契機としている。

#### 【課題】

- 家庭の教育力の向上
- 教職員の多忙化
- スーパーティーチャーの偏在
- 企業や大学を始めとした地域との連携
- 進展するグローバル化や情報化への対応を始めとした教員の資質・能力の向上

#### 【今後の方向性】

- 人づくりネットワークセンターを活用した市民総がかり教育の推進
- 将来、自分らしさを発揮しながら、浜松を支え、活躍する人材となることを目的としたキャリア教育の実践

◆一人ひとりの可能性を引き出し伸ばす施策

【取り組みの状況】

子どもの才能を伸ばす課外講座開催事業

産学官連携により3つの課外講座を実施し、将来の地域社会を担う“ものづくり人材”を育成する。

①浜松ITキッズプロジェクト	[内容]ロボット組み立て、ロボット制御プログラミング、ITに必要な算数・理科・英語の習得など体験型・実践型の講座を開催 [対象]小学3～6年生
②浜松ダヴィンチキッズプロジェクト	[内容]未来の理系人材育成のため、「サイエンスダヴィンチキッズ」、「ものづくりダヴィンチキッズ」を開催 [対象]小学5～6年生、中学生
③浜松トップガン教育システム	[内容]一人ひとりの才能を伸ばす教育システムの確立に向け、算数ゲーム大会「MATHやらまいか」や「教育シンポジウム」などを開催 [対象]小学生、中学生

その他の事業

- 芸術文化人材育成事業：ジュニアオーケストラ浜松、ジュニアクワイア浜松の育成(アクシティ)
- 浜松サイエンスアドベンチャー(HSA)：小学3～6年生対象の科学体験講座(科学館)
- 講座等開催事業：小・中学生対象の生涯学習講座・体験学習(協働センター)

【主な成果】

- ①WRO(世界ロボットオリンピック)Japan2015の決勝大会「小学校エキスパート競技」優勝
- ②国内外の理数系コンテスト等で受賞  
国際生物学オリンピック金メダル(H26)、日本昆虫協会第23回夏休み昆虫研究大賞ローチ賞(H25)、全国自然科学観察コンクール文科大臣賞(H24)

【課題】

- 「小学生～中学生～高校生～大学生～産業人」と、地域の“ものづくり人材”の育成につながる、長期的かつ継続的な教育システムの構築

【今後の方向性】

- 産学官が一体となった地域産業を担う人材育成の推進

他都市の取り組み

- 静岡県藤枝市  
【地域教育「藤枝オンリーワン教育」による定住促進】  
「科学・ICT・ロボット教育」を始めとする藤枝市ならではの教育による地方創生の実現に向け、平成28年6月にソフトバンク株式会社と包括連携協定を締結。  
中学校で人型ロボット「Pepper」を題材にしたプログラミング体験学習などの連携事業を実施。ICT活用力の習得、グループワークやテーマ研究などによるプレゼンテーション力の向上も図り、理系人材の育成を目指す。(藤枝市HPIほか)
- 茨城県古河市  
【教育ICTを活用した未来の教育づくり】  
平成27年5月に株式会社NTTドコモと協定を締結し、以下の共同研究を実施。  
・市内全小学校へタブレット端末を配布し、学力向上効果を検証  
・小中学校教員向けオンライン学習サービスによるスキル向上の検証 (古河市HP)